

「人間」に焦点 災害復興学会

日本災害復興学会 準備委員会が発足

阪神・淡路大震災などを教訓に、復興をめぐる制度や政策を多角的に研究する「日本災害復興学会」の準備委員会（委員長＝室崎益輝・総務省消防庁消防研究センター所長）が十四日、発足した。来年一月に学会を設立、西宮市の関西学院大学で第一回大会を開く。

この日、神戸市中央区の県公館で開催された「学会準備フォーラム」で、室崎委員長は「大災害の時代を迎えた今、過去の災害の教訓を文化として定着させていく必要がある」と話した。同学会は復興の理念や法体系などを総合的に研究。阪神・淡路大震災を機に制定された「被災者生活再建支援法」の見直しもテーマとする。研究者に限らず、民間

非営利団体（NPO）や行政、企業にも呼びかけ、幅広い分野から集う学会を目指す。学会発足時の目標会員数は約二百人。準備委の事務局は、関西大災害復興制度研究所に置く。

副委員長は、災害復興制度研究所の宮原浩二郎所長、復興制度に詳しい弁護士の水井幸寿氏ら四人。

神戸朝刊 P3

社会科学中心、英知を集結

阪神・淡路大震災など国内外の災害を教訓に、復興をめぐる制度や政策を多角的に研究する「日本災害復興学会」（仮称）が二〇〇八年一月に発足する。〇七年一月、関西学院大学災害復興制度研究所（西宮市）に事務局を置き、準備委員会を設立。理系の研究者を中心とした学会が多い災害研究で、社会科学系の分野

08年発足目指し 関学大に準備委

から「人間の復興」に焦点を当てる日本初の学会となる。

準備委員会の委員長に、神戸大名誉教授の室崎益輝・総務省消防庁消防研究センター所長が就任予定。被災者支援制度などに詳しい研究者や弁護士ら約三十人が発起人となる。来年一月十三、十四日には、関西学院大と兵庫県公館（神戸市中

から「人間の復興」に焦点を当てる日本初の学会となる。

から「人間の復興」に焦点を当てる日本初の学会となる。

（磯辺康子）